

民間団体としての小学校キャリア教育の取組み

～求人メディアの特色を活かして～

吉田 修

(公益社団法人 全国求人情報協会 常務理事)

当協会の概要

公益社団法人全国求人情報協会(略称:全求協)は、「信頼できる求人情報を一人ひとりに」をミッションスローガンに、自主規制による求人広告の適正化と求人メディアの信頼性向上に努め、本年(令和元年)、設立34周年を迎えました。全国に求人広告を扱うメディアは800社、求人専門のメディアは300社と言われていますが、当協会は掲載基準と相談苦情対応機能を有し、加盟基準を満たした求人メディア70社が会員となっており、以下の「8つのチカラ」で社会の信頼にえています。

【8つのチカラとは】

1 雇用開拓力 約7万人の営業担当が年間5600万件の商談を行い、10年間で2250万人が求人広告で仕事に就いた。全国求人情報協会会員は2017年に1503万件の求人広告を提供。「広告」の入職経路シェアは長年ナンバーワン。
2 マッチング推進力 数多くの仕事、多様な就業形態を提示 必須項目を設けて比較検討を容易に。商談の6割は応募者層の拡大提案、4割はミスマッチ解消。
3 コスト&タイムセーヴィング力 学生、現職者、主婦など、ハローワークではカバーできない層に対して求職プロセスを提示。就職活動に係る時間・労力・コストを効率化。
4 労働条件改善力 労働条件の公開により市場原理が働き、底上げが行われる。求人メディアとしての必須表示項目を設けて比較検討が可能。
5 スクリーニング力 新規取引企業は1社当たり1時間46分、新規原稿は1本当たり3時間24分をかけて確認。
6 情報格差改善力 年齢、性別、ハンディキャップ等の情報格差改善の取組み。障がい者雇用支援キャンペーンを実施し、14年間で1,115名の雇用に。
7 産業構造の転換促進力 税金・公的資金を投入することなく産業間の労働力移動を実現
8 広報啓発力 求人社へ:均等法、年齢制限、若者雇用促進法、改正職安法、働き方改革関連法などを周知啓発 求職者へ:就職相談や苦情対応の窓口を設置、各種啓発情報を提供。

小学校のキャリア教育の取組み

当協会の会員は年間1500万件以上の適正な求人広告を掲載し、求職者の約3分の1が、求人メディアを利用して就職しています。

求人メディアが持つ「仕事」についての知見を明日の社会を担う児童に役立てていただくために、設立30周年の2015年からキャリア教育プログラムを実施し、講師派遣を行っています。

キャリア教育実施校一覧(2015～2018年度・都道府県別)

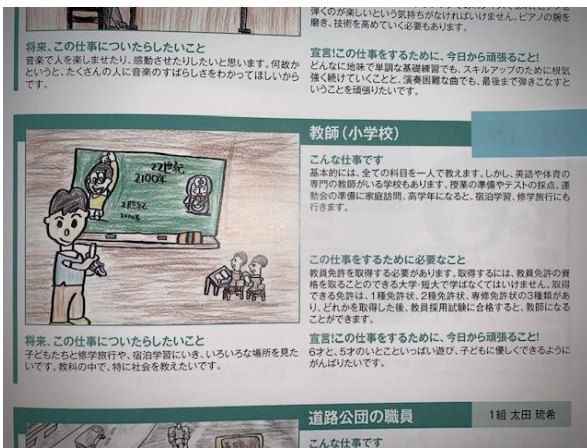
単位:校	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
北海道	1	3	3	5
宮城		1	1	
茨城	1	1	1	1
千葉				1
東京	1	1	2	3
神奈川		1	1	1
山梨			1	
静岡		1	2	1
富山			1	
大阪		1	2	1
熊本			2	2
沖縄			1	1
合計(45校)	3	9	17	16

プログラムの概要

- ・対象学年:小学校中～高学年
- ・基本プログラム:45分×4時限+取材時間
(派遣講師の授業は基本2時限)
- ・授業の流れ:
Step1 準備:(派遣講師の出前授業1時限)
社会には様々な仕事が存在していることを知るための学習。仕事研究のための情報収集方法や取材方法の学習。
Step2 研究・取材:(教員実施)
情報収集活動や仕事体験を通しての取材。
Step3 原稿作成:(教員実施1時限)
情報収集や取材をもとに、仕事研究の結果をまとめ。
Step4 発表:(派遣講師の出前授業1時限)
取材研究結果の発表、意見交換。



納品した記録冊子



取材原稿の例（児童の手書き原稿も可）

先生と子供たちの声（2018年実施校より）

○先生方より

- ・ になりたい職業や将来の夢を具体的に持てる子が増えました。
- ・ 仕事の種類が幅広くわかるようになりました。

○子どもたちより

- ・ 一人ひとりに夢があり、みんなで頑張ってるその職業に関わっていく事の大切さがわかった。
- ・ 皆の夢が一緒でも、になりたい理由がそれぞれ違って面白かった。
- ・ いろんな仕事があり、1つの仕事がたくさんの仕事と繋がっていることを知りました。
- ・ 自分の将来のために練習や勉強することの大切さがわかりました。
- ・ 自分が思っている以上にお仕事の種類や内容は大きく幅があることがわかった。
- ・ になりたい職業や夢を持つことの大切さや、それに向けての目標が立てられました。

参考：2019年大卒就職状況 TOPICS

大卒予定者の求人倍率の推移（ワークス研究所）



- 学生の売り手市場が続いている
 - ・ 新卒求人倍率、1.88倍 7年連続上昇
 - ・ 「就職する」は87.8%（前年と同水準）。「確定していない」は4.1%（調査開始の2012年卒以来最も低い）。
 - ・ 入社予定企業・組織等に対する満足度は、83.0%が「満足」（前年と同水準）。
 - ・ 「当初から第一志望群の企業・組織」に入社予定の学生は、52.1%（前年比+15.0ポイント）。
 - ・ 企業の採用数計画に対する充足は前年と同水準の47.0%。
 - インターンシップは有効
 - ・ インターンシップへの参加回数は「冬（1～3月）」が最も多く、平均で2.95回。
 - ・ 「インターンシップ参加企業に入社する予定」の学生は37.3%（前年比15.0ポイント増）。
 - 学生の就職活動量は減少
 - ・ 学生1人当たりの「プレエントリー」数は平均27.38社（2018年卒差-8.46社）、「個別企業の説明会・セミナー（対面）」参加数は平均12.83社（-1.46社）など、ほぼ全ての就職活動のプロセスにおいて減少。
 - ・ 企業の「内々定・内定出し」の割合が最も高いのは「6月」27.8%、次いで「4月」24.4%。
- ※就活申し合わせ：学部3年の3月にエントリー受付開始、同年6月に選考開始&内定出しスタート。（見直し予定あり）

出典：就職白書2019（1月調査）（就職みらい研究所）

キャリア教育『お仕事ブック』制作プログラム

（下記より申込書がダウンロードできます）

<https://www.zenkyukyo.or.jp/outline/career/>
お問合せ先

全国求人情報協会・キャリア教育部会（勝村）

Mail: koji_katsumura@en-japan.com

※対応学校数に限りのあることはご了承ください。